

平成28年度

岡山県産婦人科医会  
事業報告

岡山県産婦人科医会

# 平成 28 年度岡山県産婦人科医会事業報告

岡山県産婦人科医会会長 山 崎 善 久

平成 28 年 6 月 1 日から平成 30 年 5 月 31 日まで、日本産婦人科医会理事に就任します。また、平成 28 年 9 月 29 日から平成 29 年 9 月 3 日まで、産婦人科医会の中国ブロック長にありま

す。  
日本産婦人科医会の会議室において、第 1 回理事会 平成 28 年 5 月 14 (土)、第 2 回 9 月 10 日 (土)、第 3 回 11 月 5 日 (土)、第 4 回 平成 29 年 2 月 18 日 (土) が開催された。

第 83 回総会 (定時) 6 月 12 日 (日)、地域代表全国会議平成 28 年 9 月 11 日 (日)、第 84 回総会 (臨時) 平成 29 年 3 月 12 日 (日) には、日産婦医会理事として山崎が、岡山県産婦人科医会からは、坂口副会長が出席した。

平成 28 年 4 月 20 日 (水) に、第 1 回の理事会を開催した。協議事項として、

1. 岡山県産婦人科医会会計報告①平成 28 年度決算②平成 29 年度予算 (案) ③慶弔積立金平成 28 年度決算④同の平成 29 年度の予算 (案) ⑤平成 28 年度おぎゃー献金事業収支決算⑥同の平成 29 年予算 (案) 等を挙げた。
2. 岡山県産婦人科医会平成 28 年度事業報告・平成 29 年度事業計画等について協議した。
3. 公開講座の助成金、医報の広告掲載、役割分担等について、協議した。

平成 28 年度の決算は、

<収入>会費収入 2,390,000 円、雑収入 558,170 円で 2,948,170 円

<支出>事業費 1,979,641 円、会議費 375,734 円、旅費 100,000 円、通信費 233,102 円、その他を合わせて 2,853,015 円となり、収支差額+95,155 円となり、繰越金 1,221,545 円を確保できた。

4 月 24 日 (日) 第 29 回全国がん担当者連絡会が東京国際フォーラムで開催され、中村理事が出席した。

5 月 15 日 (日) 第 2 回母と子のメンタルヘルスフォーラムが愛知県で開催され、中塚理事が出席した。

5 月 22 日 (日) 岡山県産婦人科医会総会・岡山県産婦人科学会総会に引き続き、「改正母体保護法」指針による母体保護法指定医師研修会を開催した。

講演 1. 「若年妊娠と高年妊娠—その現状と問題点」

公益社団法人日本産婦人科医会 常務理事 安達 知子先生

講演 2. 「産科領域におけるクライシスマネジメント」

川崎医科大学 准教授 戸田 雄一郎先生

講演 3. 「中絶を巡る生命倫理」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 生命倫理学分野

名誉教授 栗屋 剛先生

等の講演があった。

5 月 29 日 (日) 第 42 回全国医療保険担当者連絡会が京王プラザで開催され、坂口副会長が出席した。

6 月 12 日 (日) 第 83 回総会 (定時) が京王プラザで開催され、山崎会長が出席した。

7 月 3 日 (日) 第 44 回全国献金担当者連絡会が品川プリンスホテルで開催され、江尻副会長が出席した。

7 月 31 日 (日) 第 39 回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会が佐賀県で開催さ

れ、山崎会長が出席した。

8月27日(土)・28日(日) 平成28年度日本産婦人科医会中国ブロック協議会が米子ワシントンホテルで開催され、山崎会長以下数名が出席した。

9月11日(日) 地域代表全国大会が京王プラザで開催され、山崎会長・坂口副会長が出席した。

10月30日(日) 第25回全国医療安全担当者連絡会が開催され、長谷川理事が出席した。

11月6日(日) おぎや一献金チャリティーコンサートが、おかやま未来ホールで開催された。

11月12(土)・13日(日) 第43回日本産婦人科医会学術集会が沖縄県で開催され、13日(日)コ・メディカル生涯研修会もあった。

12月3日(土) 厚労省・日医母体保護法指導者講習会が日本医師会館で開催され、田淵理事が出席した。

平成29年3月12日(日) 第84回日本産婦人科医会総会(臨時)が京王プラザで開催され、山崎会長、坂口副会長が出席した。

## 1. 総務部

### A. 庶務

- (1) 理事会を8回開催した。
- (2) 岡山県産婦人科医会と岡山県産婦人科学会、岡山県医師会産婦人科部会が協力して年6回の専門医会（5月は総会）を開催した。

総会の5月22日は都道府県医師会の定める母体保護指定医師研修会として日本産婦人科医会常務理事の安達知子先生が「若年妊娠と高年妊娠-その現状と問題点」、川崎大学麻酔・集中治療医学准教授の戸田雄一郎先生が「産科領域におけるクライシスマネジメント」岡山商科大学法学部教授栗屋剛先生が「中絶をめぐる生命倫理」の講演を行った。この研究会は特別参加証を発行するため、中四国各県に情報発信するとともに、県内会員に対しても他県の研修会の案内を行った。その結果、他県からも3名の出席があった。
- (3) 6月12日(日)東京京王プラザで開催された日本産婦人科医会第83回総会に山崎会長が出席した。
- (4) 11月6日には香川県産婦人科医会との共催でおぎゃー献金合奏団演奏会を岡山未来ホールで開催した。
- (5) 8月28日(日)に行われた中国ブロック協議会（鳥取県担当）に岡山県からは一般協議議題と医療保険議題を提出し、役員6名が参加した。
- (6) 9月11日(日)東京京王プラザで開催された地域代表全国会議に山崎会長、坂口副会長が出席した。
- (7) 10月30日(日)全国医療安全担当者連絡会に長谷川理事が出席した。

(江尻)

### B. 対外広報・渉外

- (1) 対外広報

山崎会長のもと各担当理事が忙しい中、中央での総会に出席し、岡山産婦人科医会の役割を果たし、また、各方面で例年通りの会の開催等努力した。  
岡山産科婦人科学会、岡山県医師会産婦人科部会に協力し業務遂行を果たした。
- (2) 渉外

対外広報の構築にむけて、県行政を通じて各地保健所等への渉外活動を展開した。  
日本産婦人科医会、学会とも山崎会長を中心に連携をはかった。  
産科、婦人科医療周産期保健医療の向上に向けて、業務遂行を果たした。

(澤井)

### C. 法制・倫理

法制に関しては、「岡山県母体保護法指定医師指定基準」に準拠して厳重管理を行うことを理事会で確認し、5月に、岡山県医師会産婦人科部会に協力し、母体保護法指定医師研修会を開催し、出席の徹底をはかった。  
特に、平成28年末に東京で母体保護法指定医師でない医師の中絶手術が問題となり、改めて母体保護法指定医師指定基準の見直しをはかった。  
何かと訴訟問題になりかねない産婦人科診療に対して、診療ガイドの徹底をはかった。

(澤井)

## 2. 経理部

(1) 岡山県産婦人科医会決算書

収入の部①岡山県産婦人科医会費(2,390,000円)②日本産婦人科医会費(4,466,000円)③雑収入(日本産婦人科医会より会費集金還元事務費、研修会補助金、広告料)(558,170円)④前年度繰越金(1,126,390円)で総計8,540,560円であった。

支出の部①日本産婦人科医会費(4,466,000円)②事業費(1,979,641円)③会議費(375,734円)④旅費(100,000円)⑤通信費(233,102円)⑥積立金(100,000円)⑦その他(64,538円)総計7,319,015円であり、平成29年度への繰越金は1,221,545円で、総計8,540,560円あった。

(2) 慶弔積立金決算書

収入の部は、①会費(70,000円)、②岡山県産婦人科医会より100,000円、③雑収入(15,000円)と④平成27年度繰越金(14,052円)の総計199,052円であった。

支出の部は、慶弔費の131,640円で67,412円が平成29年度へ繰越となった。

(3) おぎゃー献金事業収支決算書

収入の部は①産婦人科医会本部よりの還元金(127,589円)②おぎゃー献金推進活動補助金(500,000円)③おぎゃー献金合奏団記念講演会協力金(259,100円)利息(41円)で計886,730円と、前年度からの繰越金2,195,446円を合わせた総計3,082,176円であった。

支出の部は①事業費(1,147,553円)②通信費(4,515円)で総計1,152,068円、平成29年度への繰越は1,930,108円であった。

(坂口)

### 3. 学術研修部

学術研修部では下記の事業を実施した。

■平成28年5月22日(日)13:00~17:00

会場：岡山県医師会館 ホール 母体保護法指定医師研修会

(1) 講師：安達知子先生 公益社団法人日本産婦人科医会 常務理事

演題：「若年妊娠と高齢妊娠-その現状と問題点」

(2) 講師：戸田雄一郎先生 川崎医科大学 麻酔・集中治療医学 准教授

演題：「産科領域におけるクライシスマネジメント」

(3) 講師：栗屋 剛先生 岡山商科大学法学部教授

演題：「中絶をめぐる生命倫理」

■平成28年7月24日(日)13:00~15:00

会場：岡山県医師会館 ホール

講師：久保田俊郎先生

東京共済病院院長(東京医科歯科大学名誉教授)

演題：「若年女性のスポーツ障害と健康管理」

■平成28年9月18日(日)13:00~15:00

会場：岡山県医師会館 第1会議室

講師：吉村泰典先生 内閣官房参与(慶應義塾大学名誉教授)

演題：「少子化対策に求められるもの-産婦人科医療の充実-」

■平成28年11月20日(日)10:00~17:00 岡山産婦人科学会学術講演会

会場：岡山県医師会館 ホール

講師：小西郁生先生 京都医療センター院長(京都大学名誉教授)

演題：「婦人科がん再発の手術療法」

■平成 29 年 1 月 15 日（日）13：00～15：00

会場：岡山県医師会館 第 1 会議室

講師：櫻木範明先生 北海道大学大学院医学研究科生殖内分泌・腫瘍学  
分野教授

演題：「HPV 検査の子宮頸がん検診への応用」

■平成 29 年 3 月 5 日（日）13：00～15：00

会場：ピュアリティまきび

講師：杉山 隆先生 愛媛大学医学部産婦人科教授

演題：「妊娠糖尿病：平松先生との四半世紀の足跡」

（平松）

## 4. 医療安全部

- （1）医療安全過誤防止事業の推進に努めた。  
専門医会において、医療安全を推進するための講演が常時開催された。
- （2）日本産婦人科医会より出される医療安全の指針を会員に徹底した。  
日本産婦人科医会より日産婦医会報、母体安全への提言が全会員に配布された。  
母体安全への提言が全会員に配布された。
- （3）平成 28 年秋に開催される第 25 回全国医療安全担当者連絡会に参加した。  
平成 28 年 10 月 30 日に産婦人科医会会議室で開催され、長谷川雅明理事が参加した。  
参加報告を第 62 号岡山県産婦人科医報で行った。

（坂口）

## 5. 医療対策部

### A. 医療対策

- （1）県が実施する児童虐待防止事業の一環である「ハイリスク妊産婦票」の活用による情報提供に協力した。
- （2）日産婦医会定点モニター制度に協力した。

### B. コ・メディカル対策

看護師不足、助産師不足はいまだ解消にいたっていない。

（長谷川）

## 6. 勤務医部

- （1）本会への加入を促進するためには本会の活動をよく知ってもらうことが先決と考え、本会行事、特に岡山県産婦人科医会の案内を勤務医特に若手医師に積極的に広報し参加を促した。
- （2）新しい専門医制度に基づく研修プログラム及び専門医の更新に関する情報を周知し、会員が円滑に対応できるように広報活動を行った。

（増山）

## 7. 医療保険部

- （1）基金、国保の審査員が社保だより掲載内容につきメールで協議し決定した。

- (2) 8月28日(日)に行われた中国ブロック協議会(鳥取県担当)に岡山県からは医療保険7議題を提出した。当日の本部と中国5県の間で協議された内容については岡山県産婦人科医会報に掲載した。
- (3) 専門医会会報の各号に‘保険だより’を掲載した。また平成28年1年間の‘保険だより’の総括を岡山県産婦人科医会報第62号に掲載した。

(江尻)

## 8. 広報部

- (1) 岡山県産婦人科医報62号を平成29年1月に発行した。
- (2) 岡山県産婦人科医会ホームページの活用は、現在は十分に行われているといえない。
- (3) 更新は遅れながらも随時実施した。  
医会ホームページの利用状況を把握し、存続の可否についても会員の声をアンケートにより聞くことを計画したが今年は実施できなかった。

(田淵)

## 9. 女性保健部

- (1) 学校性教育の充実(妊娠・出産の基本知識の浸透・行政教育関連部署との協力)
- (2) リプロダクティブヘルス・ライツの意識の浸透  
(特に望まない妊娠の防止と避妊の知識の浸透)
- (3) 月経関連疾患の予防と治療についての啓発  
(1)～(3)は、性教育講演会、授業に協力し行った。  
日本女医会10代の性の健康支援事業 ゆいネット岡山協議会を開催した。
- (4) 高齢女性のヘルスケア  
(ホルモン補充療法の知識啓発及び骨粗鬆症・脂質異常症・骨盤臓器脱の予防啓発活動)  
女性の健康週間に県医師会女医部会に協力して県民公開講座「楽しく食べて100歳まで歩こう!～骨を元気にするおいしい講座～」を企画開催した。
- (5) 女性アスリートの健康支援のための講習会を7月24日開催した。
- (6) 乳がん、子宮がん検診の受診勧奨、ピンクリボン運動に協力した。
- (7) 性犯罪被害者支援、警察、被害者支援センターへの協力として6月16日支援者養成講座へ講師派遣をした。

(金重)

## 10. 母子保健部

平成23年に構築した社会的ハイリスク妊産婦を早期に地域保健での支援に結びつけるための「妊娠中から気になる母子支援」連絡システムにて、例年約500件であったが、平成28年の1年間で約650件の連絡をいただいた。また、岡山県内の産科医療スタッフ、地域母子保健スタッフ、さらには、子育て拠点スタッフ、一般市民、学生等への啓発のため、妊娠中のDV、産後うつ、ティーンエイジャーの妊婦のためのパンフレットなどの無料配布を行った。また、公開セミナー・シンポジウムなども開催し、各分野の専門職がともに学ぶ機会を作った。

公開セミナー・シンポジウムとしては、平成28年6月17日(金)、公開セミナー「生と死の倫理『健康な女性の卵子凍結を考える』」において、妊孕性の啓発などについて議論した。平成28年8月19日(金)には、産科医療スタッフ向けの公開セミナー『子どもをまも

る みんなのためのワクチンの知識』、平成 28 年 8 月 20 日(土)映画「うまれる ずっと、いっしょ。」の無料公開において、先天性風疹症候群の患者会〔風疹をなくそうの会〕『hand in hand』の岡山県のメンバーによる一般市民への啓発を行った。平成 28 年 9 月 11 日(日)、公開セミナー『妊婦・子育て女性の危機 マタハラ・キャリア・産後クライシス』を開催し、妊婦の抱える社会的課題に関して議論した。

(中塚)

## 1 1. 先天異常部

- (1) 平成 28 年 10 月 14 日に開催の『「風疹に関する予防対策、今後の風疹ワクチンのあり方に関する研究」-先天性風疹症候群、風疹排除に向けてのプロジェクト計画を含めて-』分担任会議に参加し、情報収集を行った。
- (2) 川崎医科大学附属病院を窓口として妊娠と風疹に関する 2 次施設としての対応を行った。
- (3) その他予定通りの活動を行った。

(下屋)

## 1 2. がん対策部

平成 28 年 4 月 24 日(日)東京国際フォーラムにて開催された。第 29 回(平成 28 年度)全国がん担当者連絡会に参加したので、講演内容の重要なポイントを報告する。

1. HPV ワクチン接種積極的勧奨再開にむけて  
日本産婦人科医会 常務理事 鈴木光明

名古屋市頸がん予防接種調査解析結果(速報)について

24 項目の症状について年齢補正を行った結果、接種した人に有意に症状のある人が多い項目はなく、反対に 15 項目(関節や身体の痛み、ひどい頭痛、身体がだるい、すぐ疲れる、集中できない、視力の低下、めまいがする、足が冷たい、なかなか眠れない、異常に長く眠る、皮膚が荒れる、過呼吸、簡単に計算が出来ない、簡単な字が思い出せない、杖や車いすが必要)については、接種後症状のある人は有意に少なかった。また 9 項目は有意な差がなかった。

2. これからの乳がん検診～マンモグラフィと超音波の総合判定について～  
がん対策委員会委員 鎌田正晴

- (1) がん検診指針(平成 28 年 2 月 4 日) 乳がん検診の検診項目は、問診及び乳房エックス線検査とする。なお視診及び触診は推奨しないが、仮に実施する場合は、乳房エックス線検査と併せて実施すること。
- (2) がん検診のあり方に関する検討会中間報告(平成 27 年 9 月) 視触診については死亡率減少効果が十分ではなく、精度管理の問題もあることから推奨しない。仮に視触診を実施する場合は、マンモグラフィと併用することとする。
- (3) マンモ単独群のがん発見率は 0.33% でエコー併用群は 0.50% で 1.5 倍である。特に早期がんの発見率が有意に高い。しかし死亡率減少効果や検診の実施体制、特異度が低下する不利益を最小化する対策などの検討が必要である。

3. 子宮内膜 LBC を用いた子宮体癌スクリーニング多施設共同試験の現況と中間解析結果

がん対策委員会副委員長 平井康夫

- (1) LBC による子宮内膜細胞診では背景が清明で観察対象の細胞数は多く、立体構築も保持されることが明らかになってきた。
- (2) 直接法では、採取器具によって集塊の大きさがまちまちで重積性の判定も多様な見方を要した。LBC 法による内膜細胞診では、液状化することで立体構造を保った均一な大きさの集塊がみられる標準的検体が得られる。
- (3) LBC による子宮内膜細胞診検査の細胞採取・標本作製・細胞判定・診断報告を標準化して子宮体がん発見の正確な精度と体がんスクリーニングとしての有用性を確立することが可能となり、産婦人科医会が主導する臨床試験が進行中である。

#### 4. 特別講演

- (1) HPV ワクチン副反応問題を検討する

ジャーナリスト・医師 村中璃子

多くの小児科医や精神科医によれば、子宮頸がんワクチンが導入される前からこの年齢のこういう症状の子供たちはいくらでも診ていた。今では何でもワクチンのせいということになっていて大多数のまとまった医者普通の判断をいうことがまるで「弱者への暴力」であるかのような雰囲気になっている。「ワクチンによって患者が生まれた」のではなく「ワクチンによって、思春期の少女にもともと多い病気の存在が顕在化した」、そう考えるのが自然ではないだろうか。

- (2) HPV ワクチンの有効性と安全性 先進諸国と日本の違い

がん対策委員会委員 今野 良

副反応問題の背景を理解するためには因果関係と時間関係について検討する必要がある。また有害事象とは接種後に生じた有害な事象のことであり、副反応とは因果関係「あり」・「疑い」と判断された有害事象のことである。

因果関係が否定できない有害事象も“副反応”と表示した結果、時間的な関係性から完全に否定できなかったものも含まれてしまった。紛れ込みが多くなった。そのため新聞等で報告される数字では、誤解されて伝わる。たとえば“HPV ワクチン接種後の高校入試合格はワクチンのおかげ”であることになる。

つまり現在の報告制度は因果関係を問わずに全ての「有害事象」を報告している。真の「副反応」とそれ以外が混合しており、紛れ込みが多くなる。「有害事象」報告の中から、真の「副反応」を検索するのが本来のあり方である。2件/10万接種の副反応というが、この数字さえも、接種との因果関係は証明されていない。

WHO では有害事象調査が完了しないうちは、ワクチン接種プログラムを止めてはいけないことになっている。ワクチンプログラムを始める前に、可能性のある有害事象を扱うための計画を立てている必要がある。

被害救済は因果関係の認定ではない。「被害救済はなるべく幅広く」が原則である。包括的支援体制（ワクチン接種有無に関わらず）思春期・学校保健の拡充が必要である。

(中村)

### 13. 献金担当連絡室

- (1) 平成 28 年 7 月 3 日に江尻副会長が全国献金担当者会議に出席した。
- (2) 平成 28 年 11 月 6 日に岡山大学 50 周年記念館でおぎゃー献金合奏団による第 3 回おぎゃー献金チャリティーコンサートを開催した。
- (3) 平成 28 年度の岡山県の献金額は 2,065,400 円であった(前年度は 1,417,657 円)。岡山県正会員一人当たりの献金額は 14,648 円で 12 番目(前年度は 14 番目)であった。

(江尻)

### 14. 警察医部

平成 25 年 1 月より岡山県警察との協力体制を保持し、性犯罪捜査活動及び性犯罪被害者等への支援に対する協定を結んでいる。

平成 28 年 7 月 1 日にこの協定を周知徹底させ、岡山方式による性犯罪捜査活動及び性犯罪被害者等への支援活動を具体化することになった。平成 29 年 1 月 26 日には岡山県医師会産婦人科部会が、県警本部捜査第一課、高場義明課長と面接し、具体化策を確認した。

(藤原)

( ) は担当の責任者